



## 信用金庫の常勤役職員数の動向

とね かずゆき  
刀禰 和之

### ポイント

- 信用金庫の平成27年度末の常勤役職員数は、前期比0.9%減少の11万428人となり、5年連続で前期を下回った。
- ピークの6年度末と比較すると、31.1%の減少であった。内訳は、男子職員が32.5%、女子職員は28.5%、それぞれ減少している。
- 27年度末の地区別の常勤役職員数は、全11地区で前期比減少した。17年度末からの変化では、東京が4割を超える減少率となり、それに北陸、東北などが続く。
- 27年度中の信用金庫別の常勤役職員増減状況は、96金庫で前期比増加した一方、155金庫で前期比減少した。そのうち20人以上の増加が8金庫、20人以上の減少は20金庫あった。
- 27年度末の1金庫あたりの常勤役職員数は、①99人以下が25金庫、②100～299人が123金庫、③300～499人が51金庫、④500～999人が43金庫、⑤1,000人以上は23金庫あった。
- 27年度末の1人あたり預金残高は12.2億円、貸出金残高は6.0億円となった。

### 1. 信用金庫の常勤役職員数の状況

#### (1) 常勤役職員数の推移

平成27年度末の常勤役職員数は、前期比0.9%、1,049人減の11万428人となり、5年連続で前期を下回った(図表1)。

信用金庫の常勤役職員数は平成6年度末の16万293人をピークに減少を続け、直近では11万人を割り込む可能性も出てきている。

#### (2) 内訳の変化

27年度末の常勤役職員の内訳は、①常勤役員が前期比1.0%減の2,195人、②男子職員が1.9%減の6万9,126人、③女子職員は0.8%増の3万9,107人となった(図表2)。男子職員

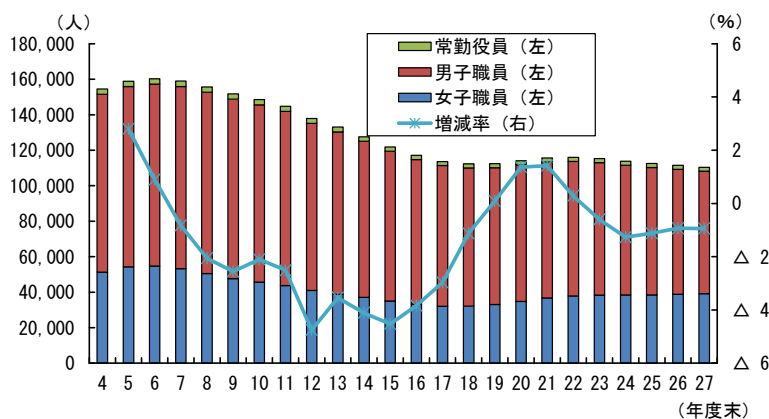
は、採用難に加えベテランの退職増などから、20年連続で前期比減少した。一方、女子職員は近年の活躍拡大策もあり、10年連続で前期を上回っている。この間の構成比をみると、男子職員が1.4ポイント低下した一方で、女子職員の割合は1.3ポイント上昇した。

### 2. 地区別の状況

27年度末の地区別の常勤役職員数は、全11地区で前期比減少した(図表3)。北陸が前期比4.0%減(144人減)となったほか、中国の2.0%減、北海道の1.7%減が続いた。

6年度末と比較すると、全11地区で2桁の

(図表1) 常勤役職員数の推移



(備考) 本稿では、他業態との合併等は考慮していない。

(図表2) 常勤役職員の内訳

(単位: 人、%)

	6年度末	26年度末	27年度末
常勤役員	2,980	2,219	2,195
(構成比)	1.8	1.9	1.9
男子職員	102,559	70,496	69,126
(構成比)	63.9	63.2	62.5
女子職員	54,754	38,762	39,107
(構成比)	34.1	34.7	35.4
合計	160,293	111,477	110,428

減少を示す。なかでも東京が42.1%、1万3,572人減と突出している。東京以外では、北陸、南九州、東北などが3割を超える減少率であったが、東海は13.8%減にとどまった。

なお、地区別の1金庫あたり常勤従業員数をみると、東京の809.8人から東北の193.1人まで開きがある。

### 3. 信用金庫別の状況

#### (1) 27年度中の増減

27年度中の信用金庫別の常勤従業員数増減状況は、①増加が96金庫(構成比36.2%)、②増減なしが14金庫(5.2%)、③減少は155金庫(58.4%)となった(図表4)。

増加した信用金庫のうち20人以上の増加は8金庫(3.0%)となる。また、減少した信用金庫のうち20人以上の減少は20金庫(7.5%)であった。

#### (2) 1金庫あたり常勤従業員数

27年度末の信用金庫の平均常勤従業員数は416.7人であった。

27年度末の1金庫あたりの常勤従業員数は、①99人以下が25金庫(構成比9.4%)、②100

～299人が123金庫(46.4%)、③300～499人が51金庫(19.2%)、④500～999人43金庫(16.2%)、⑤1,000人以上は23金庫(8.6%)であった(図表5)。ちなみに、1,000人以上の23金庫のうち、東京に本店を有する信用金庫は8金庫となる。

6年度末の構成比と比べると、①99人以下の信用金庫が13.0%(55金庫)から9.4%(25金庫)にやや低下した一方で、1,000人以上は6.8%(29金庫)から8.6%(23金庫)にやや上昇している。こうした変化は信用金庫合併によるものと推測される。

### 4. 1人あたり預貸金残高

信用金庫のパーヘッド預貸金残高は、常勤従業員数の減少と預貸金残高の増加により、増加傾向にある。27年度末のパーヘッド預貸金残高は12.2億円、パーヘッド貸出金残高は同6.0億円となった。6年度末(5.8億円、4.2億円)と比較すると、2.0倍、1.4倍である。

以上

(図表3) 地区別の常勤従業員数

(単位: 人、%、億円)

地区	6年度末	26年度末	27年度末	6年度末対比		26年度末対比		1人あたり残高		1金庫あたり人数
				増減率	増減数	増減率	増減数	預金	貸出金	
北海道	6,992	4,966	4,879	△ 30.2	△ 2,113	△ 1.7	△ 87	14.2	6.3	212.1
東北	7,925	5,278	5,214	△ 34.2	△ 2,711	△ 1.2	△ 64	9.9	4.4	193.1
東京	32,199	18,827	18,627	△ 42.1	△ 13,572	△ 1.0	△ 200	12.8	6.8	809.8
関東	30,956	21,709	21,599	△ 30.2	△ 9,357	△ 0.5	△ 110	11.6	5.6	440.7
北陸	5,459	3,569	3,425	△ 37.2	△ 2,034	△ 4.0	△ 144	10.8	4.8	214.0
東海	25,567	22,078	22,037	△ 13.8	△ 3,530	△ 0.1	△ 41	12.9	6.3	579.9
近畿	30,436	20,562	20,364	△ 33.0	△ 10,072	△ 0.9	△ 198	13.5	7.0	702.2
中国	8,791	6,177	6,048	△ 31.2	△ 2,743	△ 2.0	△ 129	9.6	5.0	288.0
四国	3,001	2,160	2,128	△ 29.0	△ 873	△ 1.4	△ 32	12.7	5.6	212.8
九州北部	3,490	2,549	2,528	△ 27.5	△ 962	△ 0.8	△ 21	8.7	3.9	194.4
南九州	5,094	3,363	3,337	△ 34.4	△ 1,757	△ 0.7	△ 26	8.2	4.5	222.4
合計	160,293	111,477	110,428	△ 31.1	△ 49,865	△ 0.9	△ 1,049	12.2	6.0	416.7

(備考) 沖縄県は合計に含む。

(図表4) 信用金庫別の増減状況  
(27年度中)

(単位: 金庫、%)

分類	金庫数	構成比
増加	96	36.2
1～9人増	79	29.8
10～19人増	9	3.3
20人以上増	8	3.0
増減なし	14	5.2
減少	155	58.4
1～9人減	108	40.7
10～19人減	27	10.1
20人以上減	20	7.5

(図表5) 1金庫あたりの常勤従業員数

